

## 閉塞性動脈硬化症（PAD）について

秋の気配が日増しに感じられる今日この頃、先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。涼しく過ごしやすい季節となりましたが、同時に血管疾患が悪化しやすい時期でもあります。特に中高年の方々に増加している「閉塞性動脈硬化症（PAD）」は、放置すると深刻な合併症を引き起こす恐れがあるため、早期発見・治療が大変重要です。この疾患の治療に関しまして当院の大内真吾先生が「血管縦切開による「ト」字吻合法と斜切開による「人」字吻合法の実験的血流量の比較」という研究論文で、秋田県医師会より「中村記念賞」を表彰されております。今回はPADに関して当院での診断と治療についてご案内させていただきます。

### 閉塞性動脈硬化症（PAD）とは？

閉塞性動脈硬化症（PAD:Peripheral Artery Disease）は、動脈硬化により主に足の動脈が狭くなることで血流が低下し、歩行時に痛みやしびれを引き起こす疾患です。典型的な症状として「間欠性跛行」や足の冷え、傷の治りが悪いといった症状が現れます。

### 重症度と手術適応について

PADの重症度はFontaine分類に基づき評価され、Ⅰ度は無症状、Ⅱ度は間欠性跛行、Ⅲ度は安静時疼痛、Ⅳ度は潰瘍・壊死を示します。重症度に応じて治療方針が決定され、Ⅱ度から治療適応があり、Ⅲ度とⅣ度は重症下肢虚血（CLI）と呼ばれ、下肢切断のリスクが高くなります。

### 当院の診断と治療

当院では、まずABI（足関節上腕血圧比）検査や超音波検査を用いて、非侵襲的に血流の状態を詳細に確認いたします。その後、造影CT検査を検討し、病状に応じた適切な治療法を提案いたします。

治療においては、切迫した状況でなければ、生活習慣の改善指導をはじめ、内服薬による血流改善や運動療法を行います。改善が乏しい場合には、カテーテル治療、手術（例：内膜剥離術、図1）、それらを組み合わせたハイブリット手術（図2）を循環器内科と協力して行っております。

PADの症状に心当たりがある方や、健康診断で動脈硬化のリスクが指摘された患者様に対しては、迅速な対応が非常に重要です。特に大腿動脈や足背動脈の触知が困難な場合、血流障害が疑われますので、早めの紹介をお願いします。ぜひ、専門医による精密な検査と適切な治療で、皆様大切な患者様が健康的な秋をお過ごしいただけるようお手伝いさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



図1：摘出した石灰化した内膜

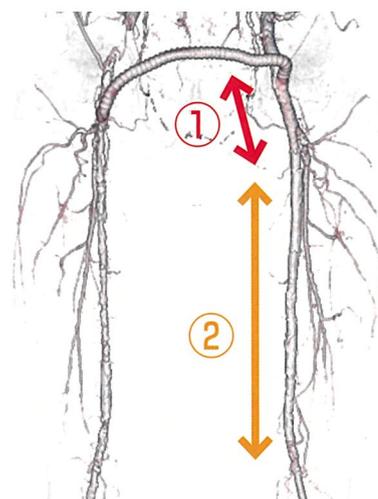


図2：ハイブリット手術  
①内膜剥離術+②浅大腿動脈ステントグラフト内挿術